

熊川宿若狭芸術祭

主催：福井県、(公財)福井県文化振興事業団、若狭町
[美術展] NPO法人若狭美&Bネット
監修責任：長谷光城 (熊川宿若狭美術館長)
[音楽会] 福井県文化振興事業団、若狭熊川宿まちづくり特別委員会

会場・2023年9月28日から10月9日

9
28

(木)

10
9

(月)

10
13

(金)

11
20

(月)

近も
く下
への

10時～16時(最終入館15時30分)*最終日14時終了
会期中無休 入場無料
*9/28(木)14時～オープニングトーク
*各作家が旧作から厳選した作品も展示されます。

10時～16時30分(最終入館16時)
開館日 金・土日・月・祝祭日
入場料(協賛金)200円
*会期中ギャラリートーク開催予定

会場・大山里奈・河口龍夫・長谷光城・渡部葉子・展

大山里奈
河口龍夫
長谷光城
渡部葉子

【1.前期】現代美術作家の大山里奈、河口龍夫、長谷光城の3名が、熊川宿若狭美術館に12日間滞在し、観客とコミュニケーションを図りながら、「会場」をテーマとした新作の構想から制作、完成までを完全公開。評論家の渡部葉子は3人と伴走しながらアートの鑑賞批評を行う。【II.後期】12日間のドキュメントを完成作品とともに構成し展覧会として開催。評論家の野田訓生は全体批評、経過記録、写真記録などに当たり記録集の編集を行う。作家と批評の「会場」からアートが生まれる瞬間をあなたへと開く2つのプロジェクト。

熊川宿若狭美術館

〒919-1532 福井県三方上中郡若狭町熊川39-5-1

TEL・FAX:050-3565-5885 <http://gallery-kumagawa.main.jp/>



臨場 — 交感する^{えら}鯉呼吸

アートの海に、「臨場」という異物が放り込まれる。
りん-じょう【臨場】その場所にのぞむこと。
臨席。(広辞苑)

およそ現代のアートには不似合いな言葉の網は不意打ちのようにピシッと水面を打ちその不定形をつかの間の水模様として浮かび上がらせながら水中に没する深みへ達するかにみえた異物のダイブはやがて油が水から弾き返されるようにしてゆるやかな浮上の運動へと転じる海中でうごめく巨大なヒトデが演ずる手話のようなダンス浮力にあらがう動きの軌跡は光る海面を背にシルエットを映し水底へ向けて暗号めいた身振りを繰り返す必然のように訪れるあっけない水面への帰還潜水は一瞬の出来事であったのかもしれないもはや異物は乗員を欠いた救命ボートのようにただ波間を漂うばかりだふいに大海の底からただならぬ気配を察知した巨魚が目覚まし海面へと浮上する異物に巨体を乗上げると鯉呼吸の圏外であることを忘れ口をパクパクさせ泡を吹きながら異物を凝視するいやもはや大気中では用をなさない視覚を空回りする鯉呼吸の体動によって無理やり触覚に取り換えるようにして異物との交感に挑み続けるふとひときわ好奇心の旺盛な若魚が未知のゲームを発見した喜びに身を震わせるようにその無垢でしなやかな知覚を巨魚の動きのリズムに重ねようとしている砂浜の一隅から「臨場」なる異物の網を投じたいまなお精悍な風貌をたたえた老漁夫は獲物たちの到来に歓喜

するとその正体である魚神へと変身を果たす胎児の個体発生を逆再生させるようにして人の姿を退化させて成魚のかたちを取り戻し砂にまみれながら大気中での鯉呼吸により水面の同志たちと発話無き交信を開始する傍らに事態を遠巻きに眺める視線が存在する偶然のようにレミング伝説にも似た不可解な有様に遭遇した一人はその場を立ち去りがたい磁力にとらわれ衣服が濡れることも忘れて海へと走り寄り空気に溺れる苦し気な生き物たちを海中へ戻そうか迷いながらいつのまにか言葉にならない生々しい思考を静かに始動させている自分に気づく

倒錯した戯画めいたイメージの羅列で恐縮だが、今回の芸術祭が標榜する、異例の試みを感知する導線となればと願う。

福井県熊川宿の地で産声をあげる、愛らしい芸術祭は果敢な挑戦を内に秘めている。芸術祭の開催にあたり、監修責任者であるアーティスト長谷光城は、確信犯の手つきで「臨場」なるコンセプトを掲げる。現代アートになじみのない「臨場」は、自身を含めた3人の芸術家と1人の批評家へ向けての、いささか乱暴な招待状であるとともに、長谷のSOSのように切迫した希求のメッセージでもある。晩年に差し掛かる作家の、「最後の仕事」「最後の変革」を求める裸の叫びが、「臨場」に込められていることは隠されてはならない。臨場する4人は何より、作家が

発する生々しい肉声への共鳴者であることで、真の共犯者となる。「臨場」はコロナ禍が社会に芸術に突きつけた課題への長谷の応答でもあろう。12日間におよぶ4名の臨場制作と、その後の約1か月にわたる作者不在の展覧という2部構成が生むコントラストの内に、忘れられてはならない記憶への照射が意図されている。

とりわけ大切に思えるのは、「臨場」と「臨場感」の峻別ではなかろうか。私たちに親しい「臨場感」とは、真の「臨場」が欠落していることで成立する認識である。辞書の中で隣り合う、「臨場」と「臨場感」の隔たりに敏感であることが、長谷が企てる「臨場」の時空を開く鍵となるのではないだろうか。

アーティストたちが創作という日常を、非日常として共に生きる12日間。歴史ある古民家をリノベした、隠れ家のような美術館へ旅し、少しばかりの勇気を持って、まずは「臨場」の扉を開いていただきたい。出会うのは、声をかけることもためられる、ヒリヒリとした芸術家の横顔であろうか。まったりと語り合う、芸術で結ばれた同志たちの笑顔であろうか。それは、旅人の運と好奇心次第。

熊川宿へ臨場せよ！「臨場」の呼び声は、誰よりも、あなたへ投げかけられている。

野田訓生

美術評論、前福井県立美術館副館長
熊川宿若狭芸術祭[美術展]運営協力
福井県文化振興事業団芸術文化アドバイザー

I 臨場・2023年9月28日から10月9日

II 臨場・大山里奈・河口龍夫・長谷光城・渡部葉子・展

臨場作家 (おおよまりな)

大山里奈

1984年茨城県生まれ。京都造形芸術大学(現京都芸術大学)大学院芸術表現学科修士。福島県葛尾村を拠点に活動。身近でおおかつ普遍的な存在である「水」や「光」の振る舞いに寄り添いながら、不安定なもの、変化し続け消えていってしまう出来事にフォーカスするインスタレーションを展開している。作品空間の中から「循環」や「余白」の感覚が静かに心地よく立ちあられ、「時計の時間」が「自然の時間」へと回帰する。「人は見えるものと見えないものの狭間を自由に行き来することができる。その方法は自分の内側に意識を向けること。私の仕事は、そのための入り口をそとつくり出すことである。」

1940年神戸市生まれ。多摩美術大学絵画科卒業。筑波大学名誉教授。金沢美術工芸大学名誉客員教授。60年代より第一線で活躍し、鉄・銅・鉛といった金属や、光や熱などのエネルギー、化石や植物の種子などを素材に、しなやかな造形言語を用いて、生命や時間といった根源的なテーマを可視化する作品を発表している。「私はこれまで多くの美術館と画廊で個展を開催してきたが、あくまでも観客を意識した展覧会をしてきたように思う。展覧会を見ている観客が満ち足りる場を創作することを意識してきたのである。今回「臨場」が中心課題であるので、私がある場へのぞむことを重要視させるならば、「臨場」の、まさにその場で生きていることによる必然性によってのみ誕生する作品世界の創作にも挑戦してみたいと願う。」

河口龍夫

臨場作家 (かわぐち・たつお)

臨場作家 (ながたに・みつる)

長谷光城

1943年旧満州牡丹江生まれ。福井県若狭町在住。多摩美術大学絵画科卒業。熊川宿若狭美術館館長。若狭の地で育ち、教職に就きながら、仏教に学び、自然と深く関わりながら日常生活を営むなかで、自然の素材である木や紙や石などを手にして、それらが語る言葉に耳を傾け、それらの素材と一体になって制作を行う。福井に起こった「北文化協会」への参加を契機に、地域に根差す文化活動のオーガナイザーとしても尽力。子ども(幼児)アート、障がい者アートにも精力的に取り組み、美術の根底にあるアートの魅力、アートのちからを通して、新しい共生社会のあり方を試行し続けている。

1961年東京生まれ。慶應義塾大学大学院文学研究科修士。慶應義塾大学アート・センター教授・キュレーター/慶應義塾ミュージアム・コモンズ(KeMCo)副機長。近現代美術史を専門とし、東京都美術館、東京都現代美術館において学芸員として活動。2006年より慶應義塾大学アート・センターにて、展覧会や各種催事を企画実施する(現代美術のシリーズ展など)とともにアート・センターが所管するアーカイブの活動にも関わる。「東京ビエンナーレ'70」研究プロジェクトや慶應義塾の建築プロジェクトなど、アーカイブ活動と展示やワークショップを結びつけた活動を実践している。近年はOBL(オブジェクト・ベースト・ラーニング)に関心を寄せ、KeMCoにおいて展開しようと試みている。

渡部葉子

臨場批評 (わたなべ・ようこ)



熊川宿若狭芸術祭[音楽会] 近藤薫と仲間たちによるおむすびコンサート

10/28(土) 13:30開場 14:00開演 (15:30終演予定)

会場/覚成寺本堂 若狭町熊川宿 *入場無料(先着40名)

演奏/近藤 薫、戸上真里(ヴァイオリン)、張田早希(ヴァイオリン)、柳澤明日花(チェロ)、遠藤終一郎(コントラバス)

問い合わせ/ハーモニーホールふくい TEL. 0776 38 8289

主催/(公財)福井県文化振興事業団 共催/若狭熊川宿まちづくり特別委員会



熊川宿若狭美術館

〒919-1532 福井県三方上中郡若狭町熊川39-5-1

TEL・FAX:050-3565-5885 <http://gallery-kumagawa.main.jp/>